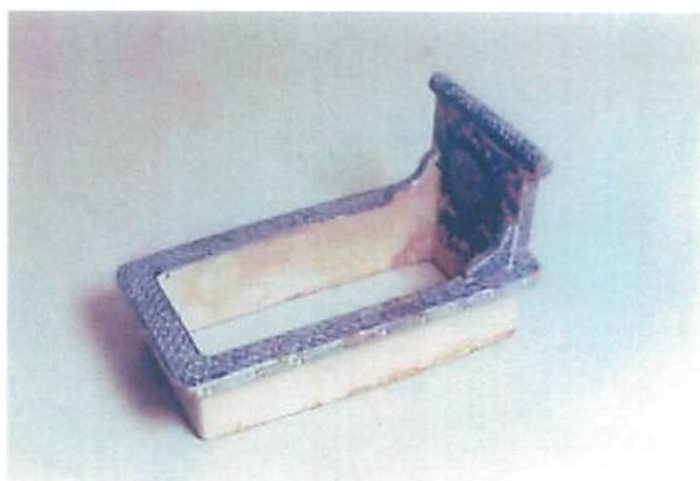


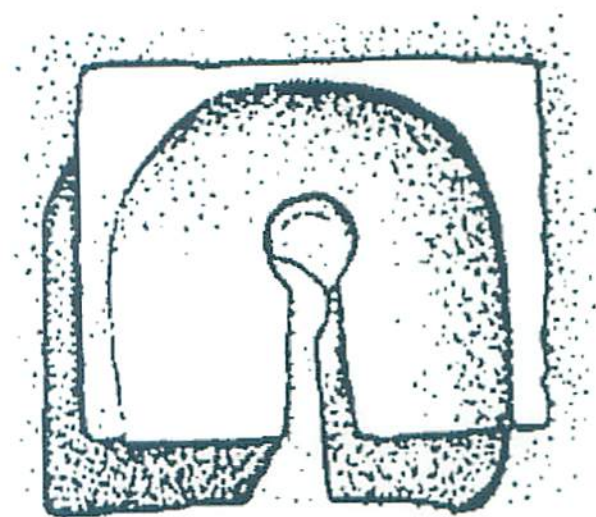
昔から今日まで、
こんなに移り変わってきた

トイレの歴史



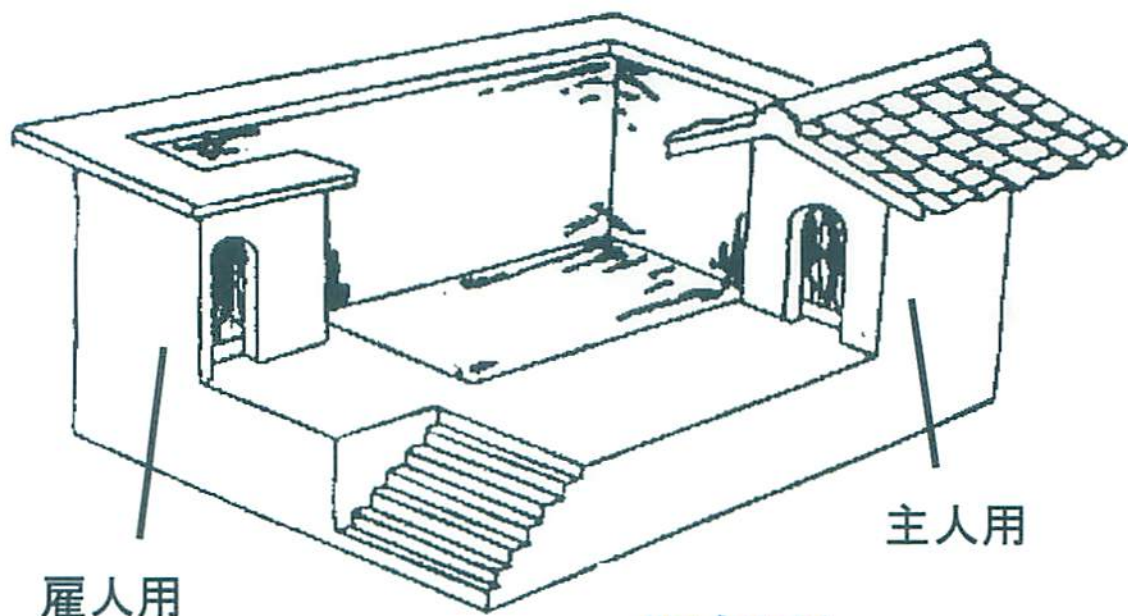
トイレの歴史(その1)

●トイレの起源



古代バビロニアの古都ウル、またその近くのテル・アルマルの発掘で、今から約4000年前にすでに水洗式のトイレがあったことがわかった。

テルアルマルのトイレ

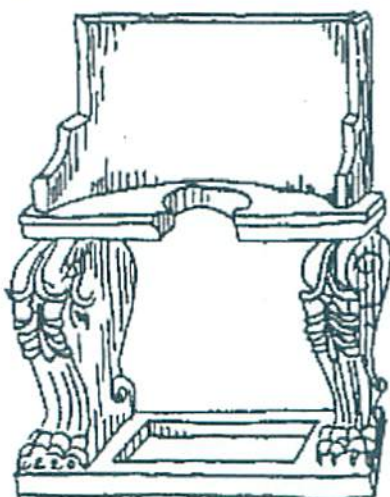


豚便所

中国においても約4500年前に豚便所、水洗便所の文字が生まれていることから、これ以前にトイレがあったことが推測される。

トイレの歴史(その2)

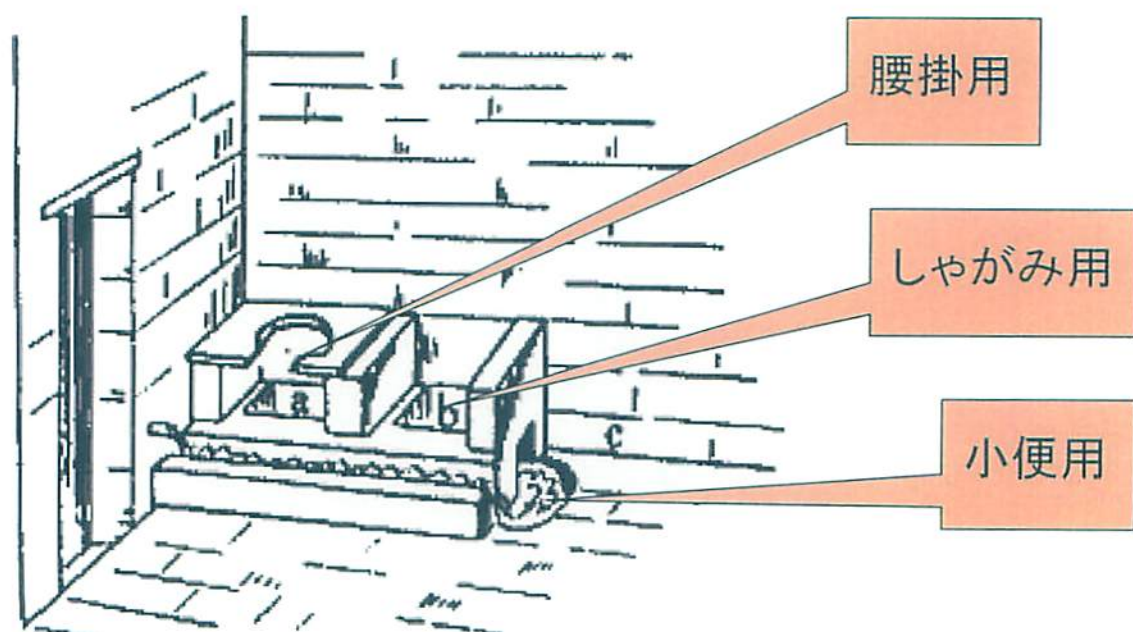
●便器の発達(1)



いす式で、これに穴があいていて、その下に金銀の容器を置いた。

王室のものは美しい大理石で、立派な彫刻を施したひじ掛けいす式であった。

ラサナ(いす便器)

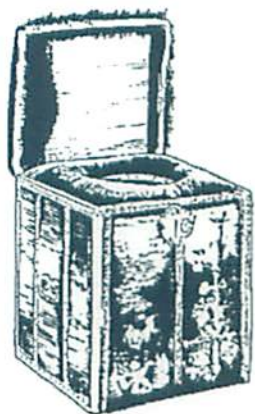


ラトリナ(ポンペイの個人住宅用水流式トイレ)

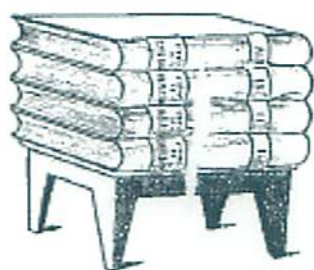
トイレの起源は4000年～4500年前と思われるが、最も発達したのはローマ時代(BC500～AD500)である。

トイレの歴史(その3)

●便器の発達(2)



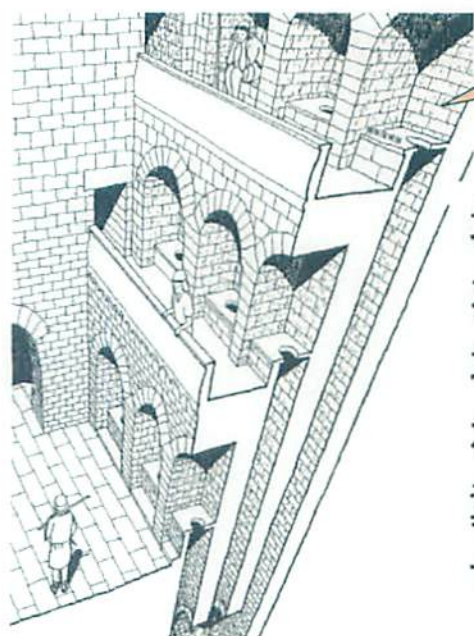
スツール便器



隠し便器

ベルサイユ宮殿を建て、華やかな宮廷生活を送ったフランスのルイ14世が使ったトイレ。

体裁を気にして、スツール便器から隠し便器となった。



腰掛用便座

城のトイレは非水洗で、外堀や城のまわりの森へ糞を落下させた。

ヨーロッパ中世のトイレ

ローマ崩壊後(500~1450)はトイレ便器に関する発達は見られず、原始的な放便、貯糞式で、この1000年は衛生史上からも不潔な時代といわれている。

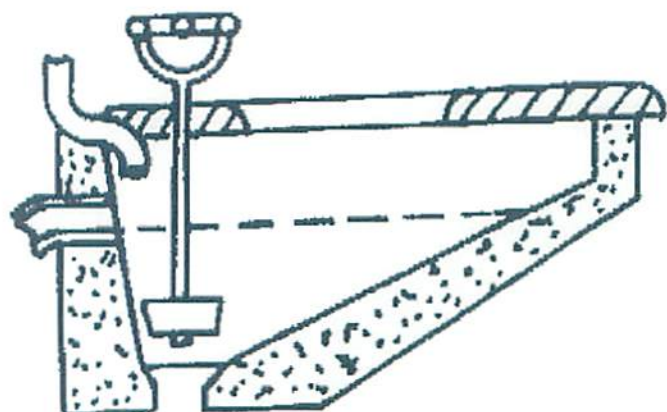


一般の家庭では、しびんを備え、その中身を朝早く窓から捨てた。

トイレの歴史(その4)

●便器の発達(3)

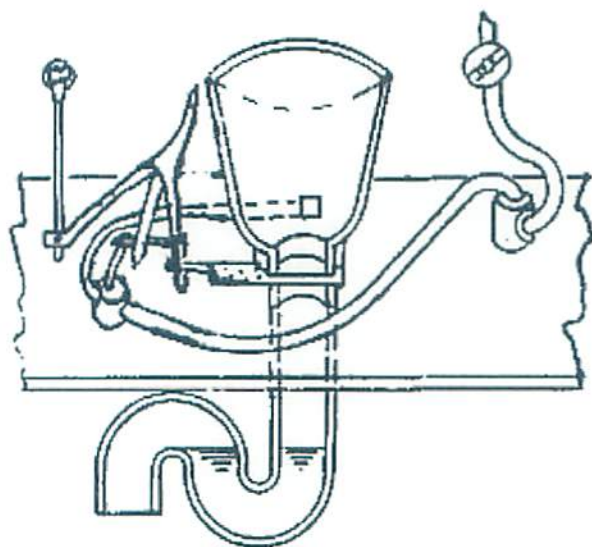
【本格的な水洗便器の発明】



1940年頃からイギリスで使われていた棒栓式の水洗便器。排水は川やセスピット(汚水だめ)に流していた。

ヘリヤの示した最初的水洗便器

【水洗便器で最初の patents】



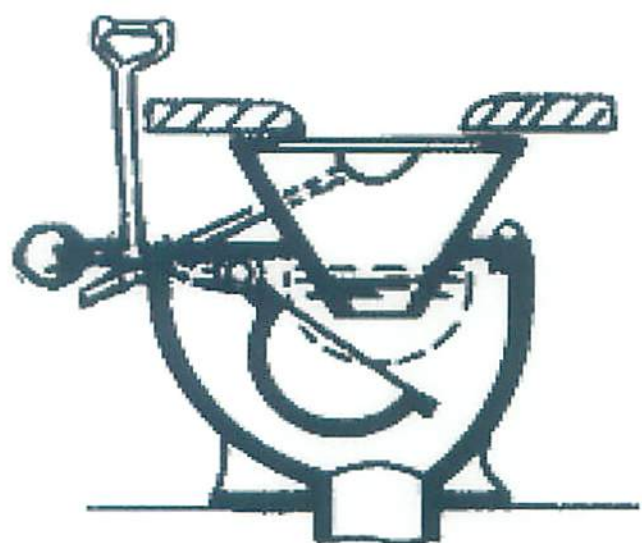
カミングス便器

1775年 イギリスの時計職人であるカミングスの発明により、水洗便器の最初の patents が取られた。トラップが設けられており、下水からの臭気防止が図られている。

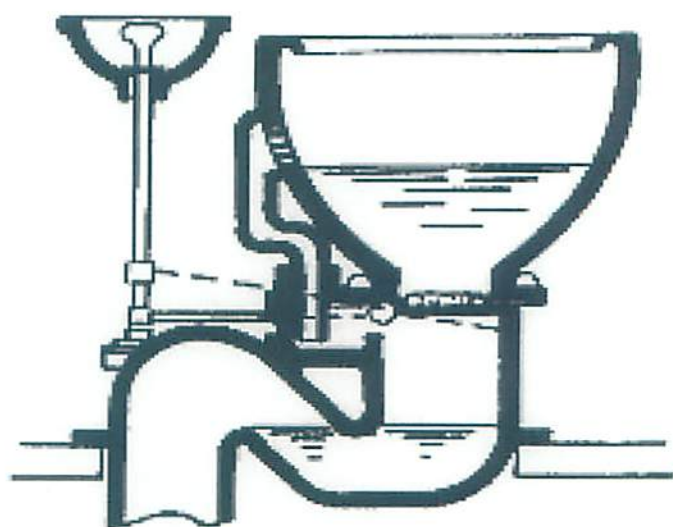
トイレの歴史(その5)

● 便器の発達(4)

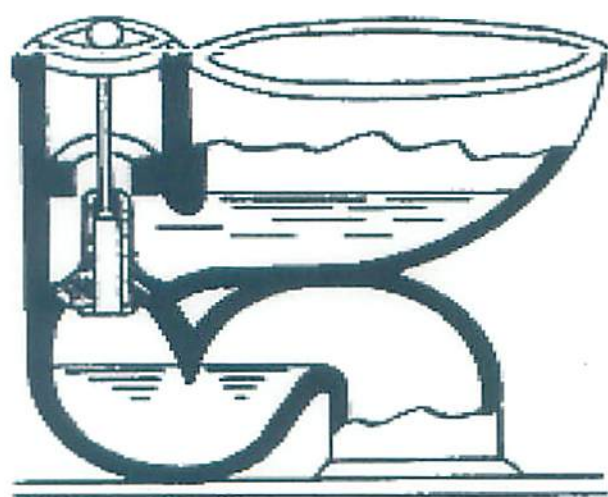
【数々の水洗式便器の考案】



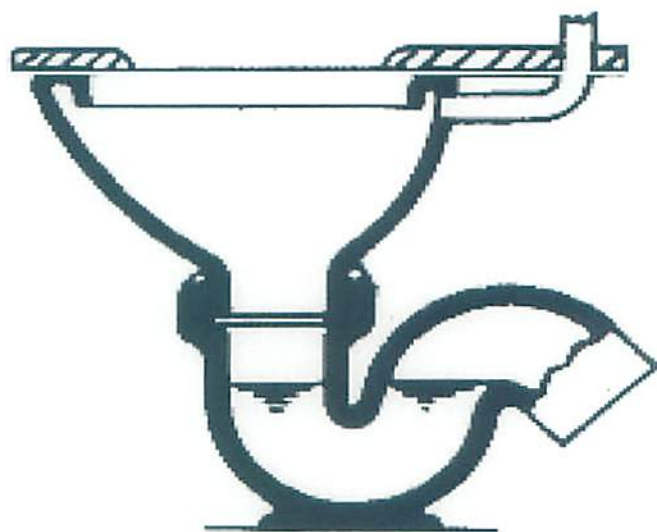
受皿式便器



弁式便器



棒栓式便器



漏斗式便器

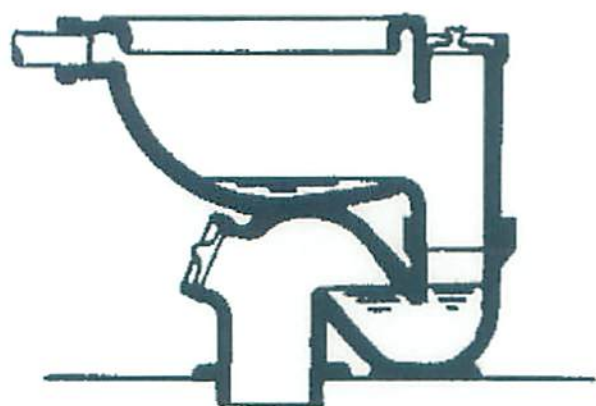
1847年 イギリスのロンドンで大下水道の完成以降、便器の発明・考案が相次いだ。

排水は川やセスピット(汚水だめ)に流していた。

トイレの歴史(その6)

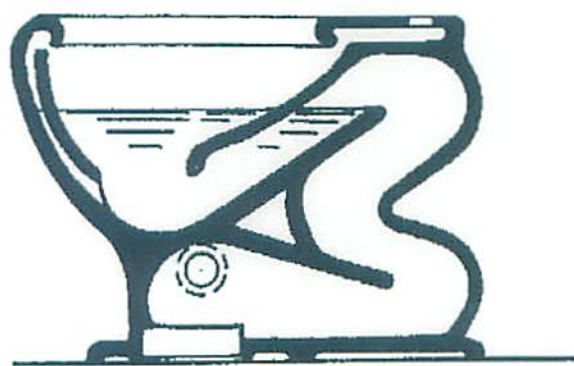
● 便器の発達(5)

【今日の水洗便器に近い製品の考案】



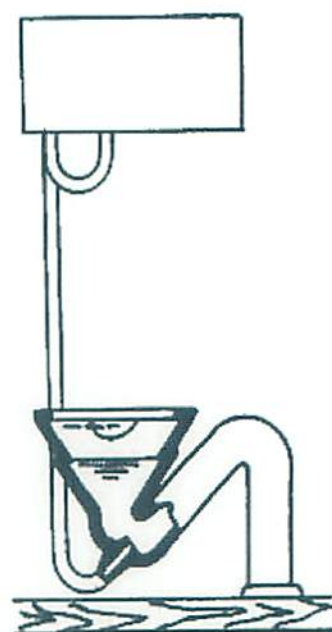
洗出し式便器

1875年 イギリスのトワイホード社が洗出し式の便器を製作し販売を開始した。



サイホン式便器

1890年 アメリカのシュミット氏が排水路を屈曲させることにより、自己サイホン作用を起こさせる特許を取得した。

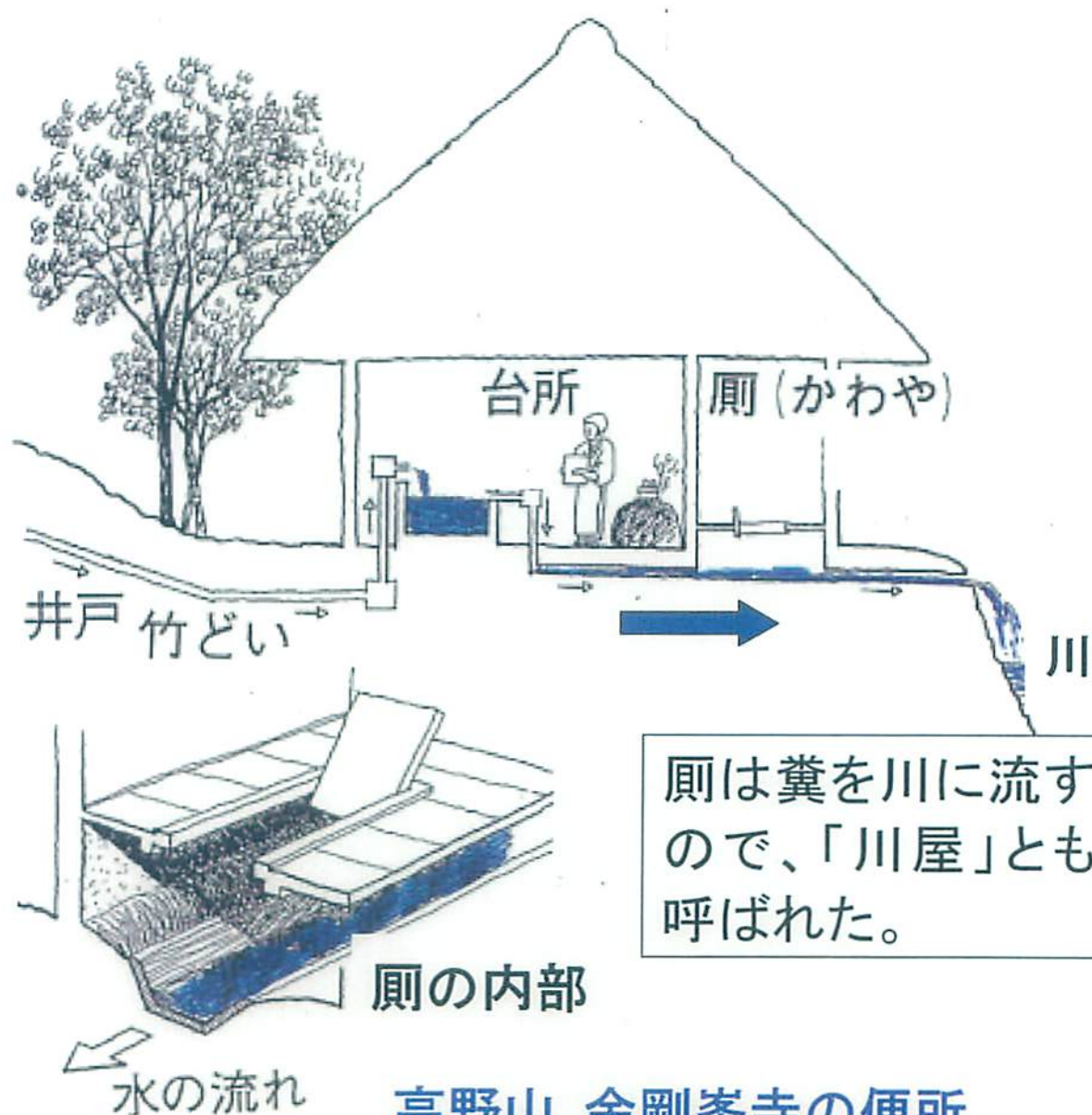


ゼット式便器

1876年 アメリカのスミス氏が排水にゼット(噴出ノズル)を利用することを考え、特許を取得した。

トイレの歴史(その7)

● 我が国での便器の発達(1)



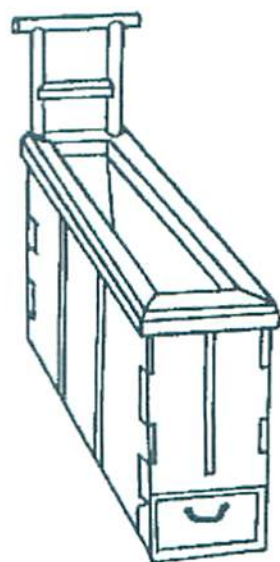
高野山 金剛峯寺の便所

我が国では、飛鳥時代(500~600年)までは水流式便所があった。

「かわや」という語源からもそれがうかがえる。

トイレの歴史(その8)

●我が国での便器の発達(2)



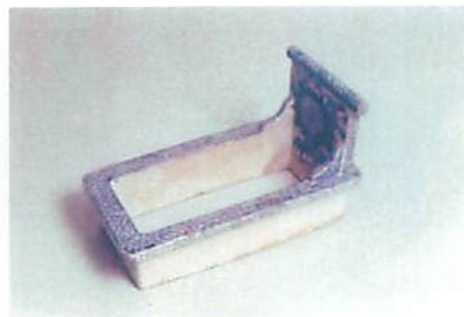
桶箱



(木製)



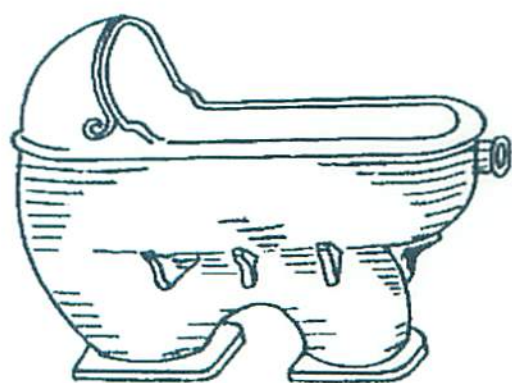
下箱



(陶器製)

平安時代から貴族の間でおまる式の桶箱が使われたが、明治時代になるまで便器の発達については語るべきものはない。明治20年頃から耐久性を増すため陶器製の下箱が瀬戸、常滑地方で造られた。

●我が国での便器の発達(3)



鉛製水洗便器

明治時代、一部の建物では外国製の腰掛便器を床下に埋め、しゃがみ式で使用したが、足の位置が定まらず苦情が発生した。明治35年 従来の下箱の下に鉛板で底をつけて少量の水が溜まるようにした和風便器に似たものを水道工事店が製造した。

トイレの歴史(その9)

● 我が国での便器の発達(4)

【国内初の腰掛式水洗便器の登場】



国内初の
水洗便器

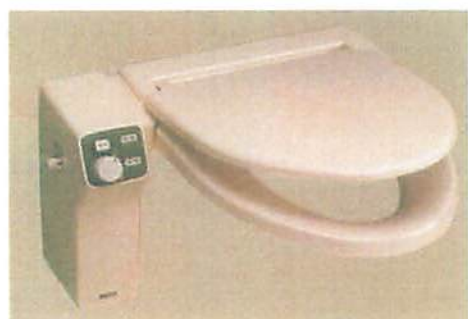


国内初の
サイホンゼット便器

大正6年に創業した東洋陶器(現:TOTO)が我が国で初めて腰掛式水洗便器の製造を開始した。また、昭和2年にサイホンゼット式の高級便器を開発した。

● 我が国での便器の発達(5)

【進化し続けるトイレ】



最初のウォシュレット



最新型トイレ
「ネオレスト」

「ウォシュレット」や「ネオレスト」など、ユニバーサルデザインとエコロジーの視点でトイレは今も進化し続けている。

力士用便器が採用された 両国国技館

昭和60年、ゆかりの地 東京両国に国技館が完成しました。

昇降する土俵や決まり手の液晶掲示板など、数々の最新設備を備えた充実ぶりは新時代の国技の殿堂にふさわしいものですが、衛生設備面でも新しい試みがなされました。

それまでは和風便器を使用していましたが、力士が用を足すときに難渋したり、若い力士の間から腰掛便器を望む声が出たこともあって、両国国技館では腰掛式の力士用便器を東西の支度部屋等に導入することになりました。

力士用便器の開発にあたっては、力士の体のサイズを計測し、使いやすさを追求していますが、全体の寸法もさることながら、排水路の内径や形状など、便器内部も詰まりにくい設計となっています。

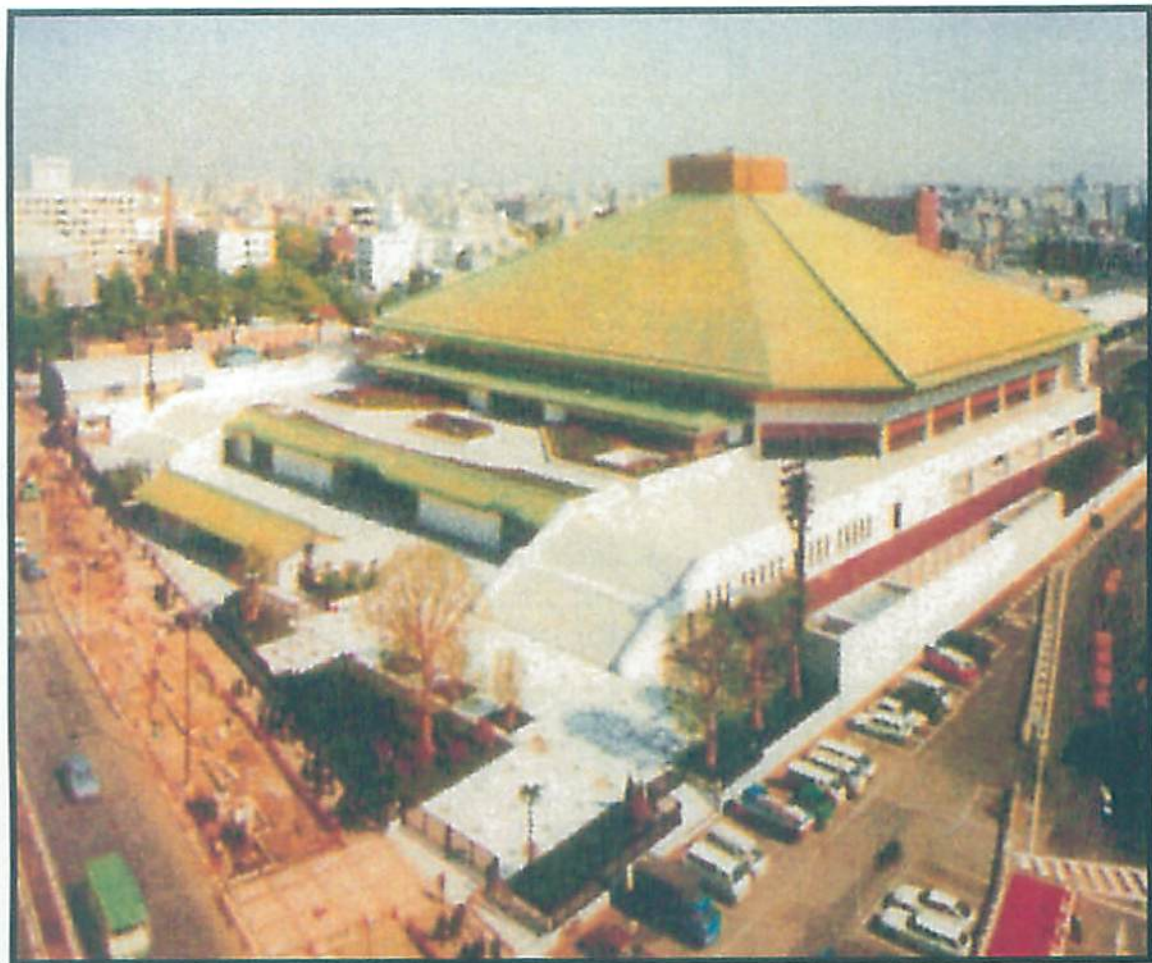
また、あの体重を支えられるように便座も丈夫な設計となっています。



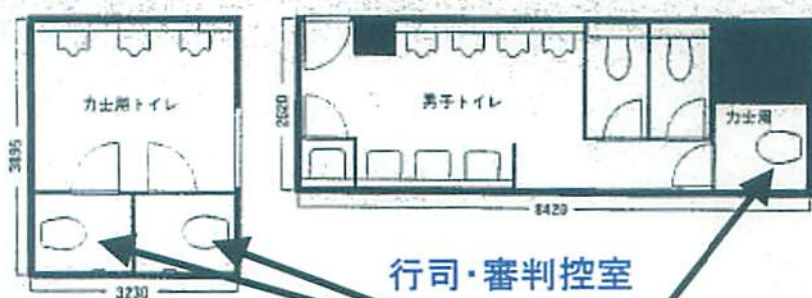
トイレブースもスケールアップしています。



支度部屋に設置された力士用便器



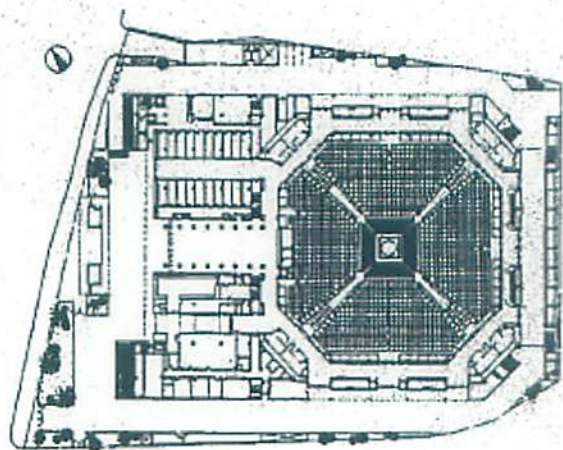
昭和六〇年に完成した
両国国技館



行司・審判控室

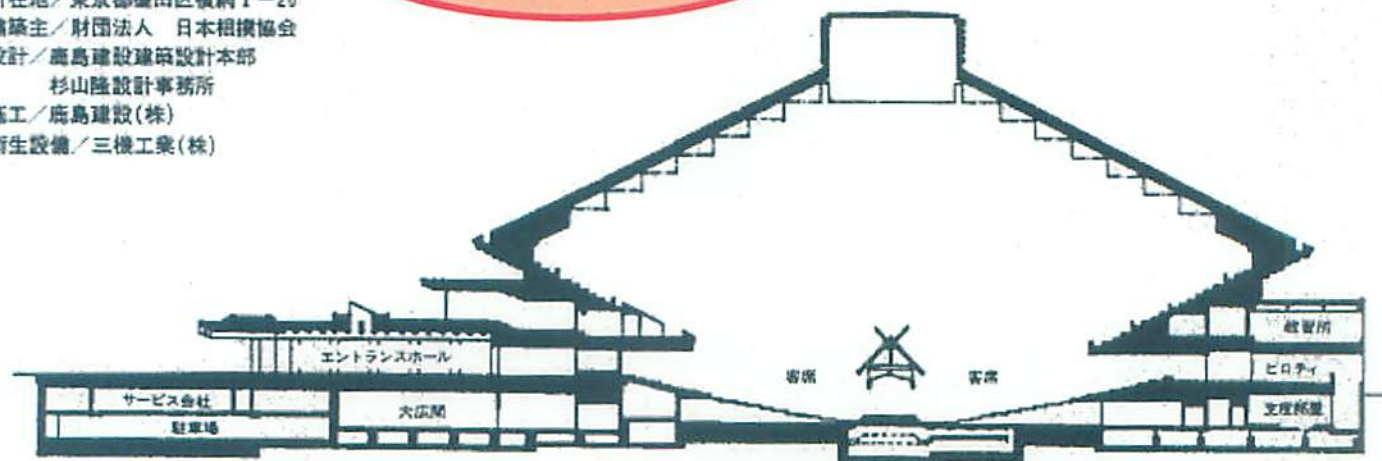
東西支度部屋

カス用便器



1階平面図

所在地/東京都墨田区横綱1-20
 建築主/財団法人 日本相撲協会
 設計/高島建設建築設計本部
 杉山隆設計事務所
 施工/高島建設(株)
 衛生設備/三機工業(株)



断面図